

NEXT ONE

～チャレンジする気持ち～

神戸市立鈴蘭台中学校
52回生・第1学年
令和2年 2月3日
学年日より 第10号

「ネタ帳」

今から約20年前、私の教え子の中にとっても発想力の豊かな男子生徒がいました。当時中学2年生のその子は、表紙に「ネタ帳」と書いたオリジナルノートを持っていました。今流行の漫才ネタではなく、ノートの中身は「生活の中にあると便利なモノ」や「人の役に立つモノ」など、自分がその時に思いついたことをすぐ書きとめるためのものでした。どのページを開けても図と文字でいっぱいになっていました。休み時間になると友だちに囲まれ、「ネタ話」を披露して盛り上がっていました。彼が興奮しながら話す「ネタ」の数々を私も一緒に楽しんでいました。ある日の「ネタ帳」には、スポーツジムにあるランニングマシンがいくつも並んだ図が描かれてあり、「これ何？」と聞くと、「ランニングマシンの上で走っているときのエネルギーを使って発電させる」と言うのです。よくよく聞いてみると、月ごとに最も頑張った人（発電NO.1）には、翌月の月謝から割引いてもらえるというアイデアでした。「たくさん走った人はダイエットになるし、割引券も貰えるんやで！」という彼の言葉に、私も「へ～なるほど面白いね。将来、これが本当に実用化されるといいよね。」と答えました。カロリー消費もできて一石二鳥の彼のアイデアに、私は思わずクスッと笑ってしまいました。その後、彼は卒業していき、何年か経った頃、「発電を利用したランニングマシンが製品化！」という記事を目にしたときは、あの時の彼のアイデアが本当に実現したのかと衝撃を受けました。

現在、彼は自分で事業を立ち上げ起業家として活躍しています。きっと中学2年のときの「ネタ帳」が今の仕事への情熱にもつながっているのでしょう。「人に喜んでもらえること」をコンセプトに、一つの仕事だけに固執することなく、幾つもの仕事を同時に手がける、いわゆる「フリーランス」という働き方をしています。彼の夢はまだまだこれからも大きく広がっていくことなのでしょうね。

さて、中学生になって初めての進路学習が始まりました。冬休みの宿題に「職業人へのインタビュー」があり、身近な人に働くことの楽しさや喜び、厳しさなどを聞きました。様々な職場で働いている人から直接話を聞いたりアドバイスを受けることは、自分の適性を知り自分を伸ばしていく大きな助けにもなります。これからは、今まで以上にいろんなことに挑戦してほしいと思います。経験を増やしていく中で、次第に「夢中になれること」「将来やってみたいこと」がはっきりとしてくると思います。焦らずにじっくりと自分の将来像を膨らませていってもらえたらと思います。



熱戦！かるた会を終えて

1年2組 女子

私は、冬休みから本格的に「百人一首」を覚える練習を始め、休み明けには80首ほど暗記していました。かるた会当日、私はすごく緊張していました。詠まれる句を聞くことに集中して、下の句を必死に探しました。得意の句が相手にとられたときは、とても悔しかったです。しかし、ペースを乱さず自分の力を十分に発揮して、2回戦とも勝てたので嬉しかったです。個人でも1位がとれたので、2年生のかるた会でも頑張ります。

1年3組 女子

私は、冬休みに百人一首をたくさん覚えることを頑張りました。何度も唱えたり、たくさん書いて覚えめました。3組は優勝できました。とても嬉しかったです。しかし、個人では2位でした。本当に悔しかったです。来年は冬休みに入る前からかるたの練習をして、クラスと個人のどちらも優勝できるように頑張ります。

1年3組 女子

私が百人一首をやったのは小学2年生のときです。覚えてたの札が初めてとれたとき、とても嬉しかったことを覚えています。今回のかるた会をきっかけに、友だちと一緒に覚えてたり、練習もたくさんしました。良い成績が残せて嬉しかったです。来年もがんばりたいです。

1年2組 女子

私は、今回のかるた会で個人4位だと分かったとき、頑張ってきて良かったなと思いました。最初は覚えている札が4枚ほどしかなく、全然とれなかったけれど、国語の授業で何回か練習をしていくうちに、少しずつ知らなかった札も覚えることができました。まだ覚えきれなかった札もあったけれど、本番では、詠み上げ始めたらすぐに下の句がとれたので良かったです。すごく楽しいかるた会でした。来年は今年よりも多くとれるように頑張りたいです。



かるた会の結果

★クラス表彰・・・3組

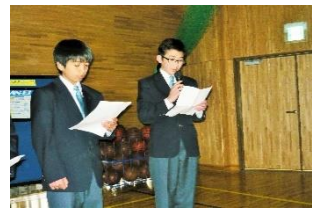
★個人表彰・・・

1・17せしモニーを終えて

1年3組 女子

1年1組 女子

私は今回の「1・17せしモニー」で司会をすることになりました。正直「上手くできるかなあ。」「かんだらどうしょう。」などと思い、少し憂うつでした。けれど、終えてみると司会をして良かったと思います。司会をするにあたって、テレビで震災の番組が流れていたら無意識に見るようになっていました。今まで知らなかったことがたくさん放送されていて、思わず見入ってしまいました。震災で家族を亡くされた方もいて、「こんなに辛い思いをした人もいるんだ。」と思いました。そして、東遊園地に行って本当に良かったと思いました。それは、震災のことを伝える活動をしている人や団体があること、復興のモニュメントについて深く知ることができたからです。私は復興のモニュメントに入るのは初めてでした。ここには、震災関連で亡くなられた方々の名前が貼ってあります。ご遺族の方も震災のことをみんなに伝えていきたいんだなと思いました。「しあわせ運べるように」を作詞・作曲された、臼井 真先生の言葉を知ることができました。私は今回の「1・17せしモニー」や、東遊園地での分灯式で今までよりも震災のことがよくわかりました。次は私たちが伝えていけないといけないと思いました。



1年2組 男子

今日の「1・17せしモニー」で、阪神淡路大震災は人々にとって最悪の日だったんだなあと感じました。なぜなら震災は、人の家を壊し、人の命を奪い、人の生きる勇気も壊しました。人は大切な人を亡くすと生きる意味を失います。ですが、それを乗り越え今まで生きてきています。この事を知らない僕たちだけ、地震からもらったものをしっかりと生かし、次の世代へつなげていきたいと思いました。震災から25年という長い間に、ここまで復興できたのもボランティアの人たちが手伝ってくださったお陰だと思うので、僕も大人になったら困っている場所に助けに行きたいです。以前、僕は「トリアージュ」のことが書かれた新聞記事を読みました。トリアージュとは、救出の順番などを決めるものです。少しでも早く、多くの人の命を効率的に救うための方法で、読んでいてすごいことだと思いました。「しあわせ運べるように」の歌の中に“亡くなった方々の分も毎日を大切に生きていこう”とう歌詞があります。震災で亡くなった方々は、死にたくて死んだわけではありません。僕は簡単に死にたいなどと思わずに、精一杯生きていきたいです。

25年前の今日、阪神淡路大震災が起こったと思うとすごく怖いです。今回、震災当時の映像を見たり話を聞いたりして、どれほどひどかったのかが伝わってきました。もしも私が、阪神淡路大震災を受けていたら、どんなことになっていたか想像もできません。これからいつ地震がおこるか分かりません。いざというときに困っている人がいたら助けたいし、自分の命も守れるようにしたいと思いました。私は、自分の家族や友だちが亡くなったという経験がないので、25年前のあの日に、友だちや家族を亡くした人の気持ちを考えると、すごく胸が痛くなるし涙が出そうになります。この前の道徳の時間に「語りかける目」の話を聞きました。こんな体験をした人がたくさんいると思ったら怖いし、悲しいし、すごく残酷だなと思いました。もし私がこんな体験をしたら、私も同じように死にたいと思うと思います。25年前に震災を体験した人は、この辛い体験に耐え、乗り越えて生きてこられたと思うとすごいなと思います。今日の「1・17せしモニー」の中で、「地震がうばったもの、それは思い出」という言葉を聞いて泣きそうになりました。けれど、やっぱり「地震が残してくれたもの、それは思いやり」と聞いたとき、地震はうばっていただけじゃないんだなと思いました。自分にとって大切な人が亡くなるのはすごく悲しいことだと思います。今あるとてつもなく大切な命をこれからも大事にしたいと思いました。25年前の震災であったことを、私たちは次の世代へとつないでいけないとだめだなと思いました。

2月の授業進度

教科	学習内容
国語	「この小さな地球の上で」 「単語の類別・品詞」
数学	空間図形
社会	歴史：第3章 1節 武士の台頭と鎌倉幕府
理科	大地がゆれる 大地が火をふく
英語	Lesson9 過去形 ♪ I just called to say I love you.

2月・3月行事予定

2/3 (月) 専門評議	完全下校 17:30	3/2 (月) 完全下校 18:00
2/10 (月) 実力考査		3/3 (火) 三送会 5・6P
2/19 (水) わくわくオーケストラ教室		3/4 (水) 専門評議
2/20 (木)・25 (火) 学習会		3/6 (金) 卒業式予行
2/26 (水)~28 (金) 学年末考査		3/10 (火) 卒業式
		3/25 (水) 修了式